

## 発刊五十号を迎えて

「さわやか」会長 江頭博幸

光陰矢の如しといいますが、月日のたつのは早いものです。「さわやか新聞」も今号で50号を迎えることになりました。

「さわやか新聞」の役目は、ボランティアの皆さんと事務局の意思の疎通をよくし、又その時々ニュースをお知らせすることです。

「さわやか」の送迎は、皆さんで、ワイワイガヤガヤとするものではなく、利用者二人きりの、孤独な活動です。ボランティアさんの横の繋がりがほとんどありません。孤独な活動を支える一助として、「さわやか新聞」の役割があると思います。恰好よく、役目を書きましたが、その役割を十分に果たしているか、疑問です。それでも、毎月一回、コツコツと「さわやか新聞」を発行してきました。早いもので五〇号を発行することが出来ました。毎回どのような

## 発刊50号記念

「さわやか」の送迎は、皆さんで、ワイワイガヤガヤとするものではなく、利用者二人きりの、孤独な活動です。ボランティアさんの横の繋がりがほとんどありません。孤独な活動を支える一助として、「さわやか新聞」の役割があると思います。恰好よく、役目を書きましたが、その役割を十分に果たしているか、疑問です。それでも、毎月一回、コツコツと「さわやか新聞」を発行してきました。早いもので五〇号を発行することが出来ました。毎回どのような

「さわやか新聞」の五〇号達成は、それなりに意義のあることだと思います。これからも、ボランティアの皆様のご支援を支えに、又継続は力をモットーに、百号をめざし、鋭意努力します。

二月五日 東京ボランティア・市民活動センター主催による第十三回移送サービス研究協議会が、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催されました。

市民活動団体の移送サービスの関係者や、自治体、企業などの幅広い視点から見た移送サービスの在り方を考えていこうと言うことで当日は、全国から三〇〇人以上の参加者が有りました。

「さわやか」からは山田と高原が参加しました。

## 「全国移送サービス研修会」に参加

「第八分科会 病院送迎を考える」と題して、全腎協事務局の西井みどりさんの報告がありました。

全腎協が推進する通院介護支援事業の実施団体の活動状況を説明しその後、参加者意見交換がありました。

資料の中には、「さわやか」のボランティアさんを利用者の方にお渡しする手引書が載っていました。参加されている方の中には、これから始めると言う団体の方もいましたので参考にさせていただいたと思います。その中で相乗りについての意見が出たのですが、イギリスなどでは、相乗りは当然

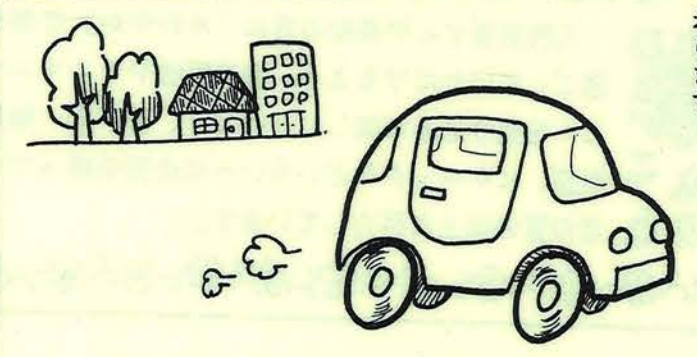
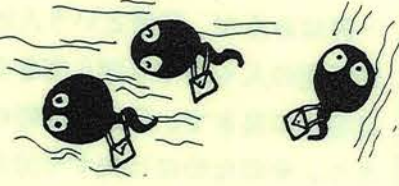
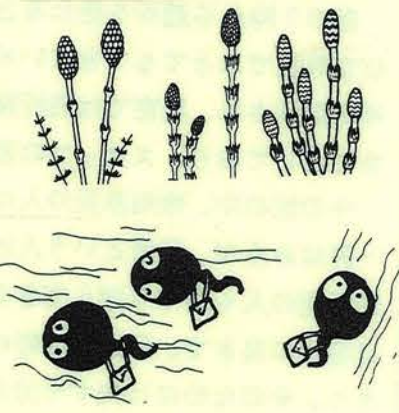
午前と午後で九つの分科会（図1参照）があり二人で手分けして四つの分科会に参加しました。その中の一つについて簡単に紹介します。

「さわやか新聞」の五〇号達成は、それなりに意義のあることだと思います。これからも、ボランティアの皆様のご支援を支えに、又継続は力をモットーに、百号をめざし、鋭意努力します。

- |  |
|--|
| ◆午前の部                                    |
| 第1分科会<br>コーディネーターは移送サービスのカナメ!            |
| 第2分科会<br>ボランティア移送サービスの基礎講座               |
| 第3分科会<br>世田谷の移動サポートセンターの実践と課題            |
| 第4分科会<br>21世紀の福祉車輛を考える                   |
| 第5分科会<br>～パネルディスカッション～<br>公共交通を利用しよう!!   |
| ◆午後の部                                    |
| 第6分科会<br>介護保険と移動の問題を考える<br>～メディスの試みを通じて～ |
| 第7分科会<br>移送サービス運転研修のあり方                  |
| 第8分科会<br>病院送迎を考える<br>(定期固定運行への対応などについて)  |
| 第9分科会<br>移動情報サービスネットワークをすすめるよう           |

図 1

「さわやか」では、現在五人のボランティアさんが、相乗りで送迎を下さっています。「さわやか」の事務局では、ボランティ



アさんはもとより患者さんにも感謝しなければならぬと思っております。

その他に、責任問題や財政問題、患者や家族、又は病院の送迎ボランティアに対する認識など、いろいろな問題定義がありました。それはおいおい「さわやか」新聞に書いていこうと思っております。

私たちは、初めてこの会に参加させていただきましたが「さわやか」のコーディネーターとして、全国の方々の声を聞くことが出来て大変参考になりました。この会で学んだことを少しでも皆様とふれあいの中でいかして行かなければならないと思っております。

## 透析病院紹介

# 小倉第一病院

院長 中村定敏先生

第2回目の病院紹介は小倉第一病院です。場所は小倉北区の九州歯科大学のお隣で国道3号線沿いにあり、どこからでも来院しやすい場所にあります。

鉄筋コンクリート6階建・職員数約100名・透析ベッド104床、総透析能力約400名・透析時間朝6:00～深夜1:00、救急応需24時間体制と大変立派な透析・糖尿病専門の病院です。

現在第一病院の透析患者さんは約300名ほどだそうです。

第一病院に来院された方なら誰でも気が付くとは思いますが、病院内がとても美しいです。掃除がすみずみまで行き届いており、屋上はガーデニングでお花がいっぱいです。また一階のエレベータ横には池があり鯉が泳いでいます。とても気持ちがよく、心をなごませてくれます。職員の方々も礼儀正しくやさしい方ばかりです。そして、患者さんを大切にくださる所や積極的なカンファレンスが、毎日のように行われ患者さん一人ひとりの悩みなど聞いてくれる、二人のケースワーカーさんが常駐している所などすばらしいな一と思えます。

地球環境に優しい病院と宣言し廃棄物の新しい利用法として生ゴミから肥料を作って皆様に無料で配布されております。

私たちの『さわやか』小倉事業所も中村院長先生のご好意で4階にお部屋を提供していただいております。このすばらしい環境の中で仕事ができる事に感謝いたしております。

### 院長先生 の ひとこと

当院の特徴を一言で表現すれば「旺盛なサービス精神」につきると思えます。昭和47年の開業の動機が「完全な社会復帰を目指す患者さん支援」で真夜中の3時まで夜間透析を行いました。なにしろ当時の透析時間は6～8時間でしたので、患者さんは仕事を勤務時間の途中で切り上げて夜間透析に赴かなければなりませんでした。

夜の7時から透析を始めると午前3時までとなるわけで、国公立病院ではとてもできないサービスでした。当院ではその精神が継承され、現在では透析業務を早朝の6時から翌日の1時までとしており、スタッフの苦勞は並大抵ではないと思えます。

今の世の中、無病息災の人は少ないのではないかと思います。一病はあるが、達者という人は少なくありません。20年以上の透析歴の人もかなり増えてきました。長期透析者に共通するのは養生の良さで、私達医療者の役目は良い養生に役立つことであり、そのためには先ず十分な医療情報を提供し、患者さんご自身が理解して役立てていただかねばなりません。コンピュータを駆使して、分かりやすい情報の提供に努めています。

透析専門の小病院ですので、自分のところで手におえない合併症は速やかに専門病院に紹介します。そのために分不相応な立派な救急車を持っています。自己完結型でなく、地域完結型でありますので、患者さんにとってはより良い医療機関に紹介され、治療を受けられるという安心感は大きいと思えます。

目下、最も力を注いでいるのは人材育成です。おかげで次々



### 院長紹介

中村定敏 なかむら さだとし

“老人よ、大志を抱け！”を座右の銘に、新しいことへのチャレンジ精神がその元気の秘訣。時代を先取りしてコンピュータを駆使したわかり

やすい診療情報の提供に努め、病院の質の向上を目的とする病院機能評価では第一号認定（一般病院種別A）を取得、医療機関による環境保全にもいち早く取り組み“患者さんと共に”をモットーに「地球環境に優しい病院の会」を発足、院内緑化による“緑の癒し”を实践。

また最良の治療を行うために地域医療機関との連携を大切にし開放型病床を開設。通院介護ボランティア「さわやか」事務局を院内に置き、通院困難な患者さんを支援している。

IT（情報技術）革命・マルチメディア時代の21世紀の到来に狂喜乱舞し、パソコンや最先端情報機器に飛びついている。現在、21世紀型の犬と仔ライオン（人工知能ロボット）の飼育に明け暮れ、パソコン技能の修得はやや遅れぎみ。

九州大学医学部卒。福岡県医師会、全日本病院協会などの要職を歴任し、現在、小倉医師会会長として常に高邁の精神でパワー全開の64才。

に開花しています。透析治療には多くの職種の人達が参加します。組織の力を十分に発揮できるように気配りをせねばなりません。

そのこと自体が昨今の私にとって活力の源泉のように思えます。



回診は、患者さんとのコミュニケーションを楽しむ至福の時。



### すひ た の こ ふ の と

入院患者さんや高齢の方に「さわやか」な毎日をご過ごしていただけるよう、音楽療法やアニマルセラピーを盛り込んだ楽しいリハビリ、腎不全・糖尿病教室、ピクニックなどいろいろな企画を練って、生活の質の向上に尽力しています。